

表現の意味とコンテキスト——意味論と語用論

言語の構成要素の中で、意味(meaning)は音とは異なり、形を持たず捉えがたいものであるために、言語表現の意味をどう扱うべきかは常に言語研究の中心的な課題の一つになっています。言語学では、言語表現の意味を、(それが用いられるコンテキストにかかわらず)それが本来有する意味(=その表現の文字通りの意味)と、それがあるコンテキストの中で用いられた際に(それが本来有する意味とは別に)伝えられる意味に分けて考えようとするのが一般的で、前者の「意味」を主に扱う分野を意味論(semantics)、後者の「意味」を主に扱う分野を語用論(pragmatics)と呼んでいます。発話のコンテキストへの依存の有無に基づいて表現の意味を区別することは、表現が担いうる多様な意味を整理することを可能にしてくれます。たとえば、次の例を考えてみましょう(Trask 2007: 227)：

(1) Susie is a heavy smoker.

(1)は「Susie は毎日大量のタバコを吸う」という意味ですが、これは(1)の文が本来有する文字通りの意味です。この意味は(1)がどのようなコンテキストで用いられても原則的に保たれるものであり、(1)の「意味論レベルの意味」ということになります。これに対して、もし次のようなコンテキストがあり、その中で Jessica が発した問いに対する答として相手が(1)の文を発したとしたら、(1)はどのようなことを伝えることになるのでしょうか(Trask 2007: 227)：

(2) (Jessica はオフィスを禁煙にするための請願書を出そうとしている)

Can you ask Susie to sign this petition?

(3) (Jessica はタバコの煙が嫌いな非喫煙者の Dave と誰かをブラインドデートさせようとしている)

Would Susie like to go out with Dave?

(4) (Jessica は医学の研究者で、医学の検査に参加してくれる喫煙者を探している)

Do you know of anybody I could ask?

(2)の場合ならば、(1)の発話は「Susie は請願書に署名してくれそうにないから、Susie に頼んでもむだだ」ということを伝えることになるでしょう。(3)の場合なら、「Dave と Susie は合わないだろうから、その二人をブラインドデートさせようとしてもむだだろう」ということ、(4)の場合なら、「Susie はその研究に参加してもらうのに適任だ」ということを伝えることになると思われます。この場合、(1)がこれらのさまざまな事柄をその文の本来の意味として表すというのではなく、それらは(1)の文とそれが発せられるコンテキストとの相互作用の結果として生じるものであると見なすのが妥当です。すなわち、これら三つの意味は同一の「意味論レベルの意味」を持つ表現の「語用論レベルの意味」ということになります。このように、たとえ同じ表現であっても、それが発話のコンテキストの中で実際に伝える意味内容は種々様々であるわけです。意味のレベルを分けて考えてみることは、種々の言語表現を適切に理解する上で大切です。

表現の意味とコンテキストの問題について、もう一つ考えておきます。副詞の just は「ちょうど・・・だ」「ただ(単に)・・・(だけ)だ」などの日本語の相当表現から窺えるように、その本来の意味は「事物の範囲の限定」に関わるものです。次の例を参照 (cf. 友澤 2010)：

(5) Cooking lasagna isn't difficult—it's just a matter of following a recipe.

(6) A: Excuse me, what do I write here? B: Just write your hotel address.

このような just は、コンテキストの中では単なる「限定」以上の意味を伴って用いられることがあります。次の例を見てみましょう：

(7) My ex-husband just had to buy the most expensive one. (Leech 2004: 80)

(8) Some children are just slower at learning. (Sargeant 2002: 74)

(7)は「私の前夫はただ[とにかく]一番高いものを買わないと気が済まない人だった」、(8)は「子どもたちの中には物事を習得するのにただ単に普通よりも時間がかかる子もいるんです」といった意味ですが、これらは発話の中で「それはその主体(=前夫/子どもたち)の(説明不可能な)特徴/特性なので、仕方がない[受け入れざるをえない]」という(場合によっては多少悲観的な)気持ちを表していると解することができます。さらに、次の場合を参照：

(9) A viral illness typically just has to “run its own course.”

(9)は「ウイルス性の病気は(抗生物質が効かないため)普通はただ(単に)治るのを待つしかない」という意味ですが、前後のコンテキストによってその不可避の事柄をどう捉えるかは変わってきます。多少悲観的にならざるをえないこともあるが、それが治りやすい病気であれば、しばらく辛抱すれば治るという楽観的な気持ちを表すこともありえます。これらはコンテキストによって揺れがあるものなので、just という語の本来の意味とは別のものであり、語用論レベルの意味であると言えます。表現の本来の意味が発話のコンテキストと結びついて、多様な意味が創出されます。